



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六星同窓会
印刷所
印刷
能登

日本伝統文化をモデルに



六星同窓会会長

杉山 榮太郎

皆様それぞれ立場や環境の中にあつて懸命に頑張つておられる事

と存じます。

ご承知の通り毎日のように経済

名門復活を引き継いで



学校長

松原 清

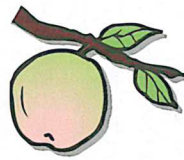
六星同窓会の皆様方には益々お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃本校の教育活動に対し、ご理解とご支援賜り厚く御礼申し上げます。

今年度も六星同窓会総会ははじめ、金沢・東海・関西・加賀・関東各支部の会に参加をさせていただき

同窓生の方々から在学当時のお話をお伺いし、改めて本校を造つてこられた先生方や卒業生の本校への熱い思いを感じました。

昨年四月に前乗富校長から引き継いだ「名門復活」を目指して一年が過ぎようとしています。十一月三日の文化祭では、十年

危機、人心荒廃を映すかのような異常現象、日本が一つの文明国家として大きな曲がり角を迎えていると感じざるを得ないと思つているのは私一人でないと思います。然し、日本人の良き伝統文化、正直で真面目、勤勉であるならば、世界の人々から必ずや日本人の生活行動がモデルとなる時代が来るものと信じておる一人です。



ぶりに本校生産物の販売を行い、外部からは八〇〇名を超える方々にご来校いただき、本校の教育活動の成果をご覧いただくこともできました。また、併せて旧図書館

(同窓会記念会館)の展示物を移動し、校舎内に展示室を設置し当日から公開いたしました。本校が所蔵する貴重な書物や懐かしい写真も展示してございますので是非一度学校へお越しいただきますようお願いいたします。

次に今年度の農業クラブ全国大会は茨城県ひたちなか市を中心に開催され、本校から二十一名が参加しました。北信越大会を勝ち抜

いたフードテクノロジー研究会は「地域に響け！我ら翠星ベーカー！」と題して本校産の小麦や米粉を使ったパンづくりについて発表、残念ながら入賞はできませんでしたが、酒粕酵母の利用、本校での成分分析について高い評価をいただきました。また、農業鑑定競技では「造園」部門で参加二名とも優秀賞をいただきました。来年度は二次から「課題研究」が始まり、「農業科学基礎」、「環境科学基礎」、「総合実習」と併せて農業クラブへの意識とプロジェクト研究の技術を更に向上させて行くよう現在計画中です。全国大会での「最優秀賞」目指し取組を強化していきます。

そのために今までの地域連携、産学官の連携が必要となって参りますので、同窓会会員のご支援ご協力をお願いいたします。

一方部活動ですが、野球部は二年生中心の若いチームですが、七月の高校野球県大会では全校で小松まで出かけ、応援団、吹奏楽部と一致団結して応援することができました。勝つことはできませんでしたが、立派な戦いでした。

来年度が楽しみなチームに育ってきております。また、陸上部は北信越大会へ女子では初めて一名出場することができました。十一月の駅伝には男女アベック出場を果

たすことができ、男女とも中位で終えることができました。その際県陸上協会の副会長が本校同窓生(昭和三十三年からの七連覇のメンバー)で、大変喜んでいただきました。研究会活動では先のフードテクノロジー研究会の他バイオテクロジー研究会が能美市でのササユリ、シユンランの生産を通して里山保全活動に、グリーンデザイン研究会も松任・竹松海岸でのハマナス保全活動に参加するなど地域貢献活動を展開しています。その他、今年度卒業生の就職は不況の影響を受け大変厳しい状況でした。その中で問題点として農業関連の就職先が少ないことも浮かび上がってきています。来年度に向けて一月から職場開拓を開始しておりますが、松任農業時代の学科担当体制と進路指導課及び担任が担当する体制を融合機能させ、一人一人のニーズをきちんと把握し指導する体制を年度内に構築するよう進めております。職場開拓ではお力をお借りすることもできると存じます。何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

終わりに、同窓会の皆様方のご健勝とご活躍を祈念するとともに、今後とも本校の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

（この欄は省略）

地域に響け！我ら翠星へーカリー

地産地消への挑戦

フードテクノロジー研究会 三年

沢田 澤・新田ツトム・表 実歩
茨目 謙太・川原 千夏・西原 舞

1 活動の概要

私たちフードテクノロジー研究会では「地元の食材の可能性を伸ばしたい」、「私たちの食卓をおいしい食品で彩りたい」を活動の基本テーマとし、プロジェクト活動を行ってきました。いくつもの食品の試作と研究を続けていく中で、主食として最近の食卓で並ぶことが多くなつたパンについても文献を調べました。その中で驚くべき事実を知つたのです。日本の食糧



自給率四〇%しかなく、今、私たちが口にしてるパンは国内で生産されている原材料で作るとしたら、ほんの一%しかできないというのです。私たちが食べているパンの原材料の九九%は輸入に頼っているという事実が愕然としました。そして、私たちは一〇〇%国産パンを作ろう。翠星高校、白山市、石川県の素材を使った地産地消パンを作ろう。この言葉を含い言葉にこの取り組みをスタートし

ました。

そして、三年目の今年、これらのノウハウを生かし、商品化を目指し、「翠星へーカリー」を完成し、地産地消パンの研究をさらに進め、翠星ロール、翠星米粉ロールの二種類を開発し、文化祭や校内販売所、さらに近隣のスーパーでも販売しました。翠星ロールは、翠星産の小麦を主原料に、翠星米粉ロールは、翠星産小麦に県内産米粉を配合したとてもおいしいパンで販売早々、売り切れるという好評を博しました。

また、今年度からは米粉の利用にも力を入れたことから、市内の中学校の授業へ出張し、「翠星アグリ塾出前講座」という名称で米粉



パンの講習会も実施しました。自分たちが三年間、外部のイベントや校内の講習会を通じて培ったコミュニケーション能力や指導力を十分に発揮、先生役となり中学生を指導することができ、自分たち

のやったことに自信を深めました。

2 活動の成果と今後の課題

三年間の取り組みを通じてわかつたことは、私たちが暮らしている地域で作られていない食材が輸入品や添加物に頼らない食品作りには大きな可能性を持っていることが理解できた。また、農業高校が持っている財産は、圃場であり、施設であり、卒業生であり、地域の人々であり、それらを活用することでもの作りのすばらしさを理解することができた。また、酒粕酵母を利用することで地域の素材の今まで気づかなかつた可能性を見つけ、さらに何度も失敗しても負けずに挑戦し続けることが重要であることが理解できた。そして地元の素材を生かした翠星ロール・翠星米粉ロールの製造・販売活動を通じて、地域の素材の可能性、農業高校生のパワーを地域の人たちに理解していただけた。そして、品質的にも価格的にも市販されているパンに負けないものを作ることが出来ました。さらに翠星アグリ塾出前講座では、若い世代にも地産地消の考え方やもの作りの楽しさを理解していただけた。

今後の課題として、翠星へーカリーの活動を研究会としての活動として終わらせるのではなく、農業高校生のパワーを地域にアピールできる農業高校の顔としての存在感を持たせ、製品のさらなる開発と製造システムをしっかりと構築し、定期販売、多品種販売を目指していきたい。また、「翠星へーカリー」の店舗を校内に設置する夢も持っています。

学校訪問

平成二十二年十一月十九日(木)

昭和三十三年卒業 小林昶夫
(金沢支部)

昨年引き続き今年も学校訪問に参加しました。今年は十三名の方が参加されました。午後一時に校長室に集まり、松原校長先生よりご挨拶がありました。来年は翠星高校になつて十年目を迎えるので十年誌の作成をしたいと思つている事や、今年も駅伝競走に良い成績が収める事が出来た事等話されました。次に金沢支部長の大蔵氏よりお礼の言葉が述べられ、校内の見学となりました。

最初に案内された所は、資料室でした。母校は百三十年と言う長い歴史があるので、多くの資料があります。主なものが展示されておりました。「あつここに私が！」と声を上げられたのはMさんでした。その写真には彼女が写っていました。「この写真は、我々の時のようだ。」「セピア色の写真はやがて半世紀も前のものようです。」

次に最近できたと言う図書室に行きました。大変に明るくて綺麗でした。私の時は、元の養蚕室を図書室として使っていたので、暗く感じられました。でも二階には

沢山本があり、原書も多くあつたのを覚えております。

次に介護実習室へ行きました。一見不思議な感じがしました。こんな教科があるとは知りませんでした。体の不自由な人との接し方が白板に書かれていました。多分お風呂の入れ方の実習もあるのか簡易お風呂やトイレも置いてありました。ここでも時代の変化を実感させられました。

食品製造実習室では、数名の生徒さんが小麦粉について何か実験をしていました。私達の当時は農芸化学と言う科があつていろんな農産物の加工等をしていたので思い出しました。今ではいろんな機械が並び製造工場の様でした。

ピュアマートは、午後二時から開店だそうです。二十分前から大勢のお客さんが並んで待つて



おいででした。毎木曜日の開店を心待ちにしていらつしやるお客さんが、おいですることは心強いものを感じました。開店後三十分位で殆ど売りつくされるといふから、よほど良い品物が安く売られているのだからと思います。そこを横目に見ながら、水耕栽培の温室へと向いました。ここではサラダ菜が栽培されていました。2cm角のスポンジ風のものに種が一粒ずつ蒔かれ、成長する毎に広い空間に移されて行く。無農薬で栽培されているので、洗わなくてもそのまま食べられるとの事でした。「純菜ちゃん」と言う愛称で販売されているようです。

次に待望のシクラメンの温室に着きました。色とりどりのシクラメンが咲いていました。今年には四鉢買って帰りました。春まで咲き続けてくれるので、長く楽しめて嬉しいです。

校長室に戻り意見交換をして、帰路に着きました。来年も是非参加したいです。



千載一遇

昭和三〇年度卒業 農芸化学科 藤 修

開校一三六年、私も三年間在学卒業して五六年目、その間三回校名が変更され、県下はもとより全国でも数多くの卒業生を送り、六星同窓会員の数は多く、先輩方の労と努力に対して誇りに思い感謝する所です。

私は当時松任高等学校として最後の卒業であり、反面初めて農芸化学科が新設され、農産加工が初めての試みであり、現在の様な設備も完備されていない中であつたが、それなりの加工実習を体得する事が出来ました。

昭和三十年春卒業し、畜産加工会社に入社、工場はハム・ソーセージ等の製造であつたが、当時はハム・ソーセージと云えば高級品で、一般庶民の口に入ることが少なく自衛隊納品が主であり、小売は肉屋さんの数店に並べられる程度でした。原料は牛、豚、鶏肉が生肉として販売される量しかなく、馬肉中心の加工品でした。

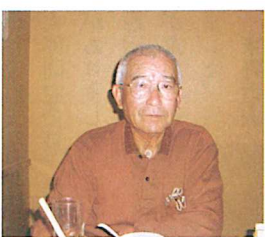
ある日突然、当時農林試験場より指導にこられた鈴木先生からソーセージの製造をしてみないかと、全く知識もない私に話しかけられ「ハイ」と云う事で受け、これが私に与えられたチャンスと思ひ、一から一步一歩経験と知識を積み重ね、月日は過ぎ去り、苦勞と努力そして多くの方々より協力、助言で何とか多くの人々の食卓を賑わす事となり、自分として少し

れしく感ずる様になった。

昭和四十五年初めて日本ハム・ソーセージ品評会が開催、当社より三品の出展が決まり、ポロニアソーセージ部門で第一席大臣賞に決定と連絡があり、全国二〇〇余社の頂点と認められ、反面日本一の製品としての誇りと自信を基に今までの苦勞を忘れることは出来ません。

そして現在の「天狗ハム」としての草分けの一員になり得た事を頭中に留め、食品業界の技術アドバイザーとして生涯技を生かして活躍することを約し、卒業生の一員として母校あつてと思い感謝する所です。

伝統校としてのスポーツでは、私も在学中は陸上部の一員として在籍していました。陸上部顧問として永島先生が赴任され、西部陸上競技場でお逢いすることが出来ました。話の中で活躍を約束、ご依頼申し上げていた矢先、四八年振りに中出恭平(二十年卒)君が全国総体に出場の快挙、そして翌年は県下駅伝大会に出場。かつて昭和三十三年三十九年の七年連続全国大会に県代表として陸上界史上大記録を達成した経緯があり、再度陸上復活の気ざしを見る事が出来、先輩の一人として喜び一杯の気持です。



三〇余年の出場がなかった駅伝競技にも出場することが出来、名コチの努力

に感謝し愛好者が増え、復活出来る事を先輩の一員として期待すると共に、今後の活躍を楽しみにしたいと思います。

地域農業と生きる

昭和四八年度卒業 農学科 中西 高志

私の住む一木地区は、旧松任市のほぼ中央に位置し、約二四〇haの水田を有し、集落周辺を除き圃場整備が完了した地域である。このような地域で、平成二年より大豆のブロックローテーションを展開し、高度な生産調整対応を図り今日に至っている。しかし、当地区全体の農業経営をみると、農業従事者の高齢化・兼業化の進行は著しく、近い将来地区の水田農業の維持・発展に支障をきたす恐れが想定される。そのような状況の中、効率的な水田農業を実施していくために、平成十九年に、農事組合法人一木を設立した。

ふと思いおこすと四〇年前、高校一年の秋、意見発表の大会で「農業を企業化して……」と題して七分間の発表。大型機械の導入による規模拡大、あまつた人員で他品目の生産・加工他と効率化をはかり、会社組織に農業をかえる、といった内容。少年が思いえがいた未来型農業。その頃の水田農業といえは、まだ耕運機で耕し、水苗代、田植えは手で、稲刈りはやつとバインダーが導入されたころ「いどはん」という季節労働のおばさん達もまだいた。しかし、こ

から数年で各農家に、トラクタ1・コンバイン・田植え機などの農業機械が導入され、がらりと様変わりをした時期でもあつた。昭和五十五年春に、自家にもどつて就農する。大学・研修時代は花卉専攻で、父の切花に鉢花生産をプラスして小さな規模の拡大を図る。

県下でおこなわれた国体等の花飾のため、花壇苗の生産に移行。現在は、水稲5ha・切花四〇a・花苗二〇aの生産農家であるとともに、先にも表わした組合法人一木の構成員として活動中である。最近、食の安心・安全意識の高まりや、低い自給率への危機感、さらに環境対策としての農村保全等、新しい農業の可能性に大きな期待が寄せられています。

私も、組合法人の構成員の一人として、又一人の生産者として、魅力ある仕事、大切な仕事を、地域住民をはじめ消費者に、大いに発信し関心を高め、組合員の充実、新しい人材の育成、地域が一緒になつて創意工夫をおこなつて、この一木地区に、みんなが集う農業を創造していきたい。



支部だより

関東支部総会

平成二十一年十一月二十八日(土)日本教育会館(千代田区一ツ橋)で、第十三回関東支部総会が開催されました。村松邦祐支部長挨拶の後、松原清校長より学校の近況報告がありました。



総会後の懇親会では、恒例のビンゴゲームで一喜一憂しながら学生時代の話で大いに盛り上がりました。

関西支部総会

平成二十一年九月十二日(土)関西支部総会(宮岸岩夫支部長)が大阪市中央区西心斎橋「ハートンホテル心斎橋」において、同窓生十二名が集いました。支部長挨拶、木下鋼典教頭来賓挨拶の後、事業報告、平成二十年度収支報告がありました。総会後の懇親会では、一年ぶりの再開を懐かしがり、尽きることのない学生時代の思い出話やふるさとの話に花を咲かせました。



東海支部だより

東海六星支部

昭和三十六年度卒

農業土木科 山本 満男

平成二十二年新春を東海支部も爽やかに迎えさせて頂きました。昨年は米国のリーマンショックの影響を受けた日本は不況に陥り、政界も民主党に政権交代と変動の多い年でした。

又一方、東海地方では伊勢神宮のシンボル宇治橋の架け替えと、各種工事が今も進行しています。

さて、私達六星同窓会東海支部は平成十四年より始まり、一昨年は多数の御参加方ご協力を頂き、当時の思い出やふるさとの話に大いに盛り上がりました。今年は九年度目となります。本年は五月二十二日(土)『ホテルサンルートプラザ名古屋』にて多数の御参加を頂いて開催させて頂きたいと思えます。

また、本昌康氏(株式会社ブドウの木 代表取締役)「ぶどうの木：松農からはじまったビジネス」と題する講演がありました。また、懇親会では大蔵支部長のマジックショーで大いに盛り上がりました。



加賀支部総会

新支部長に西田雅博氏

平成二十一年十月三十一日(土)加賀温泉駅前 長生殿で六星同窓会加賀支部総会が行なわれました。

小谷重信支部長挨拶の後、杉山榮太郎同窓会長、松原清校長の挨拶がありました。また、新支部長に西田雅博氏

が選出されました。

東野哲夫

氏の乾杯で懇親会が始まり、盛会のうちに終えました。



金沢支部総会

平成二十一年七月四日(土)金沢都ホテルで総会が行われました。総会は、大蔵捷直支部長、松原清校長の挨拶の後、会務報告、監査報告等がありました。

また、本昌康氏(株式会社ブドウの木 代表取締役)「ぶどうの木：松農からはじまったビジネス」と題する講演がありました。また、懇親会では大蔵支部長のマジックショーで大いに盛り上がりました。



小松市 向本折支部だより

昭和三十三年度卒

農業科 土中伊佐男

我が町は古くから小松市街地の

近郊地として野菜の栽培が熱心に行われて来ました。栽培面積が広まるにつれ加賀温泉地や近郷へ振り売りに出かける様になり、その後は小松市卸売市場も開設され、近年は共同出荷で県外へも進出し、健全な野菜団地が確立されています。此の栽培と販売の先頭に立つて活躍して来たのが松農OBのメンバーです。毎年優秀な後継者づくりに松農へ進学し、卒業後地元農業を育てて来ています。現在の



会員は三二名、会長は六代目です。会合にはトマトや胡瓜の栽培の話が中心で、酒を酌み交わす毎に情報が飛び交い、元気が出て盛りあがります。このような会は六星同窓会ならではの松農魂の誇りです。

平成二十一年度六星同窓会総会

平成二十一年五月三十日(土)六星同窓会総会が「グランドホテル松任」で開催されました。杉山榮太郎会長、松原清校長の挨拶の後、会務報告、会計決算報告、予算、役員の変更等が行われましたがすべての議案が、全会一致で可決されました。

事務局だより

会計監査

5月12日(火)本校

理事会・総会

5月30日(土)グランドホテル松任

《支部総会》

【東海支部総会】

5月30日(土)ホテルサンルートプラザ名古屋

木下教頭出席

【向本折(小松市)支部総会】

6月14日(日)料亭蓮翠

田端教諭出席

【金沢支部総会】

7月4日(土)金沢都ホテル

松原校長、田端教諭出席

【関西支部総会】

9月12日(土)ハートンホテル心斎橋

木下教頭、田端教諭出席

【加賀支部総会】

10月31日(土)長生殿

松原校長、田端教諭出席

【関東支部総会】

11月28日(土)日本教育会館

松原校長、田端教諭出席

計報

安田 隆明(顧問)

本田 尚子(副会長)